



“よねやま”から広がる新しい世界 ⑩

クラブが変わる、家族が変わる



四日市東RC
(第2630地区 三重県)

カウンセラー

市田 淳一さん

米山への認識を変えた奨学生

陳君と会った時は、「すごい子がいるな」と驚きました。自分のビジョンがしっかり話せて、小さな枠に収まらないスケール、しかも、イケメンで背が高い(笑)。米山奨学生は、かなり優秀な学生が選ばれているのがわかりましたし、それだけのインパクトのある奨学金なのだ、米山に対する認識が変わりました。

最初は軽く考えていたカウンセラーの役割も、「やるからには、彼の人的な成長や進路にきちんと向き合わなければ」と思うようになりました。いわば、“父親代わり”だとわかってきたので、3つの役割に絞って、それをきっちり果たそうと決めました。

一つ目は「どこに行っても通用する人間になるよう指導する」。そのため、彼が書く文章は毎回かなり厳しく添削しました。二つ目は、「できるだけ話を聞く機会をつくる」。忙しくても、メールや電話などを通じて連絡を取り合うようにしました。三つ目は「できるだけ機会を与えてあげたい」と。陳君には、可能なかぎり例会に来よう勧め、ほかのクラブに卓話に行く機会があれば、積極的に彼と行くようにしました。実は、彼と一緒に訪問したクラブの一つ、鳥羽ロータリークラブ(RC)とは、そのときの縁がきっかけで、友好クラブの提携を結びました。今も陳君のことを気にかけてくれますので、鳥羽RCの皆さんにも彼の近況は報告しています。

また、陳君の存在と行動は、地域の大学との距離を大きく縮めてくれました。当クラブ恒例の社会奉仕事業に、ボランティアとして大学の留学生仲間を誘ってくれたり、「留学生の着物体験」という事業の参加者を全国から集めてくれるなど、

期待以上の役割を担ってくれたのです。彼の仲立ちで、大学を巻き込んだ新規事業として、当クラブ会員による大学での出張卓話と留学生との意見交換会も始まりました。これは双方に好評で、内容を深めながら継続していきます。まさしく彼の残した功績の一つと言えます。

そんなこともあって、ほかの会員からの陳君に対する評価もすこぶる高く、みんな、彼のことを奨学生というより、仲間の一員として見ていた気がします。それまでは「世話クラブは面倒だから、できれば遠慮したい」という雰囲気でしたが、米山奨学生を受け入れたことへの多くのメリット、いろいろな可能性が生まれることを全会員が実感し、その意識は180度変わったと思います。

思いをかなえるその日まで

私の家族も変わりました。陳君の故郷の西安を家族で訪ね、ご両親や親戚と交流したことで、漠然とあった中国への偏見がなくなったようです。息子は、どんどん人とつながっていく陳君を尊敬し慕っています。彼には初めての国際交流であり、良い勉強になったことでしょう。

大学院進学を機に上京した陳君とは、東京出張に合わせ、今も年に数回会っています。彼には、自分で事業や雇用を創出して地元に貢献し、世界の課題解決の一助になりたいという思いがありますので、その時が来たら、日本の良いところやロータリー精神を取り入れて、真の“懸け橋”の役割を果たしてほしいと思っています。それまでは、いろいろあっても頑張れ！日本にいる間の父親として、彼の成長を見守りたいと思います。



陳君の家族と家族ぐるみの交流

「奨学生になって人生が変わった」という米山奨学生や学友は多くいますが、「奨学生を受け入れて、クラブが変わった」という声はあまり聞かれませんが、実際、奨学生のことにはカウンセラー任せになりがちなクラブも多いようです。市田淳一さんも奨学生との縁が薄かった一人。それが、陳^{チン}瑶^{ヨウ}さんとの交流を通じ、「彼がクラブに来なければ起きなかった変化がたくさん起きた」と語る市田さん、そして、変化をもたらした“張本人”の陳さんに話を聞きました。



米山学友
チン ヨウ
陳 瑶さん

出身：中国
奨学期間：2012 - 14
学校名：四日市大学

父親、友人以上の存在

奨学生の間、私は例会にはほぼ毎週出席させてもらいました。大学生の私にとって、経営者の皆さんというお話できるのは、非常にぜいたくなチャンスでした。会員の皆さんにはいつも温かく接してもらい、「一期一会」の大切さを行動で教えていただきました。

奨学生2年目の夏、合格できると思っていた大学院に不合格となり、落ち込んで進学をあきらめようか迷っていた私に、多くの皆さんが激励の言葉をかけてくれました。また、多忙な市田さんが私のために丸一日時間を割いて、伊勢までドライブに連れていってくれたことも忘れられません。おいしいものをごちそうになりながら、「どんな経験も将来につながる。陳君なら絶対に合格できる」と励まされ、本当の子どものように思ってくれているのだと、胸が熱くなりました。その言葉に勇気もらい、いくつかの大学院に挑戦し、東京外国語大学大学院に進学することができました。

市田さんは今年3月の卒業式にも駆けつけてくれました。今でも一番よく話を聞いてもらうのは市田さ

んで、就職のこと、将来のこと、何でも話して相談に乗ってもらっています。私にとって、父親のようであり、友人のようであり、今はそれ以上の存在です。

変わらぬ人生の目標を目指して

日本留学を志したきっかけの一つは、中学生の時、ボランティアで行った甘肅省^{かんしゅう}で、貧富の格差を目の当たりにしてショックを受けたことです。そこから、戦後わずか30年で先進国の仲間入りをし、格差がほとんどないと言われる日本に興味を持つようになったのです。留学してからは、経済格差を縮め、持続可能な社会と国にするためにはどうすべきかを研究してきました。今も、私の人生の目標はそこに行き着きます。

この春から私は、世界的に事業を展開する日本の商社兼メーカーの本社に就職、日々さまざまな企業を訪問し、営業活動をしています。ここで得た経験を糧に、いつかは自分で事業を起こして、日中韓・東南アジアを結ぶ懸け橋になり、貧困地域の自立や格差是正に貢献したいと思っています。点と点がつながって線になるように、全ての経験がそこに通じると信じて、まずは自分の道を確立できるよう全力で頑張ります。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または“よねやまだより”についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



財団設立 50 周年！ 写真を大募集します

ロータリー米山記念奨学会では2017年、財団設立50周年を迎えるにあたり、記念誌を発行します。皆さまのお手元に、米山記念奨学事業の沿革や歴史に関わる写真、「米山」の素晴らしさを捉えた写真など、記念すべき一枚がありましたら、ぜひお送りください。応募いただいた写真の中から、50周年記念誌に掲載させていただきます。締め切りは2017年1月20日（消印有効）。応募者氏名と連絡先を明記の上、撮影年月、写真に関する簡単な説明メモを添え、できる限りデジタル化した画像を下記メール宛てにお送りください。郵送の場合は当会でデータ化した後、ご返却します。※なお、応募された写真の肖像権ならびに著作権について、当会は一切の責任を負わないものといたします。

メール：highlight@rotary-yoneyama.or.jp

郵 送：〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 3 F ロータリー米山記念奨学会・広報担当宛て